

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	有限会社青年劇場		
所在地	新宿区新宿2-9-20問川ビル4階	設立年	1964年
運営主体	秋田雨雀・土方与志記念青年劇場		
事業目標	この事業を通して、演劇部のない中学校の子どもたちに演劇活動の場を提供する。学校とは違った環境と人間関係の中で、子どもたちの中に眠っているコミュニケーション能力を引き出し、共同して一つの事に取り組み、創り上げる喜びと達成感を体験させる。		
きっかけ	昨年から引き続きの実施である。前回調べたところ、劇団の所在地である新宿区には演劇部のある公立中学校がなく、生徒たちが気軽に演劇に触れられる場所がないことがわかる。また、コロナが子どもたちに与えている影響を鑑みて、「コミュニケーションの芸術」とも呼ばれる「演劇」の楽しさ、面白さを体験してもらうことで、参加してくれる生徒が自主性、協調性を育てていく場、何かをやり遂げ達成感を得ることで自己肯定感を高められる場を築きたいと考える。 青年劇場の持っているスタジオを活かし、中学生たちが継続的に演劇文化に触れられる場所を作りたいと考え実施に至る。		
団体・組織等の連携	(特定非営利法人)あそびと文化のNPO新宿子ども劇場の理事長、副理事長に外部有識者として参加してもらい、準備段階、実施段階でアドバイス等を得る。実施する中で参加者の保護者間のネットワークをつくり、子どもたちの芸術に触れ学び体験する環境について共に考えた。		
活動場所	青年劇場 スタジオ結(ゆい) 新宿区新宿2-9-20問川ビルBF1		
活動概要	応募してくれた8名の中学生に対し、全8回の演劇ワークショップを実施。前半4回は2時間実施で、シアターゲームなどのコミュニケーションゲームを主に行う。後半4回は3時間実施で、短い演劇作品の稽古を主に行った。最終日には成果発表として、保護者や関係者を迎えて小作品の公演を行った。		

○本事業による成果

募集チラシを見て、8名の中学生が申し込んでくれた。(日程が合わなくなり途中5回目から1名参加辞退)

- ・日常で演劇に触れる機会の少ない中学生たちに、段階を踏んで演劇文化への理解を深めてもらい、興味関心を引き出すことが出来た。
- ・それぞれ別の学校に通っている参加者たちが、ワークショップを通して深いつながりを作ることができた。
- ・成果発表を行ったことで、参加者生徒たちに、本格的な舞台上に立ち人前で演劇を行うという非日常の体験をしてもらうことができた。今回、夏休み明けから学校に行けなくなってしまった不登校の中学生が1名参加してくれていたが、WSを重ねるごとにどんどん自己解放していき、最終日には保護者も驚くほど堂々とした姿で役を演じていた。
- ・以下、全行程終了後に行ったアンケート調査で得た回答。(一部抜粋)
「私はかなり自己肯定感が低い方で、人の前に立つことがかなり苦手ですぐ緊張してしまうのですが、今回のワークショップで人前に立って演劇をして、自分らしく頑張ればそれでいいんだと思えました。演劇の楽しさだけでなく、心も学ぶことができ、友達もできました。このワークショップに参加できて本当によかったです。」
「一番までの短い練習の間、皆が劇を成功させるという一つのことに向かって努力したこと、最後に感じたあの達成感を、忘れたくないと思います。本当に、最初から最後までずっと楽しかったです。新しい出会いと気づきを与えてくださり、ありがとうございました。
「今まで父や母、先生などに毎回「声を大きく出しな」「手を挙げて発表しな」と言われてきました。でもワークショップに行ったことにより、まだ手は挙げられないけど、大きな声ができるようになりました。来年くらいには手も挙げられるようにしたいです。」

○児童・生徒への指導に関する工夫

【準備段階】

- ・生徒たちの募集について、新宿区と新宿区教育委員会から後援名義を得て、公立中学校全校生徒へのチラシの配布を実施。また教育委員会を通じて校長会やスクールコーディネーター、PTAなどにも連絡を取り、昨年の活動報告書を用いて取り組みの有効性を紹介しつつ、直接生徒にアピールしてもらえるように依頼した。私立中学校へは独自のルートで教師と連絡を取り、理解を得たうえで生徒への周知を依頼。また、新宿区観光文化課に依頼して、新宿区内約100か所にある掲示板にチラシを掲示してもらった。
- ・劇団のホームページ上でもPRを行った。

【実施に当たって】

- ・コロナ対策として定期的なPCR検査の実施。当日もスタジオ内の消毒や、ファシリテーター、参加者の検温、手指の消毒を徹底した。
- ・劇団の稽古場で行うことで、参加者に本格的な設備の中で演劇に触れてもらうことができた。
- ・保護者にも活動を理解してもらうために、ワークショップの見学を呼びかけたり、成果発表を通して参加者生徒の様子を見てもらう場を設けた。

○運営上の工夫

【準備段階】

- ・生徒たちの募集について、新宿区と新宿区教育委員会から後援名義を得て、公立中学校全校生徒へのチラシの配布を実施。また教育委員会を通じて校長会やスクールコーディネーター、PTAなどにも連絡を取り、昨年の活動報告書を用いて取り組みの有効性を紹介しつつ、直接生徒にアピールしてもらえるように依頼した。私立中学校へは独自のルートで教師と連絡を取り、理解を得たうえで生徒への周知を依頼。また、新宿区観光文化課に依頼して、新宿区内約100か所にある掲示板にチラシを掲示してもらった。
- ・劇団のホームページ上でもPRを行った。

【実施に当たって】

- ・コロナ対策として定期的なPCR検査の実施。当日もスタジオ内の消毒や、ファシリテーター、参加者の検温、手指の消毒を徹底した。
- ・劇団の稽古場で行うことで、参加者に本格的な設備の中で演劇に触れてもらうことができた。
- ・保護者にも活動を理解してもらうために、ワークショップの見学を呼びかけたり、成果発表を通して参加者生徒の様子を見てもらう場を設けた。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・まず、今回参加してくれた中学生や保護者から、「次回もまたぜひ参加したい」「引き続き実施して欲しい」という感想が寄せられた。様々な課題はありつつも、これらの要望に応えるためにも次年度も実施できる方法を検討したい。
 - ・新宿区と新宿区教育委員会の後援を得たことで、区内全ての公立中学校に通う生徒への呼び掛けを行うことはできたが、ちょうどコロナの感染者数が急拡大した時期と重なり応募が入り段階で途絶えてしまう。その後新宿区外の中学校(私立や国立、都立など)にも働きかけを行い、コロナも少しづつ落ち着いたことで申し込みが一定あったが、定員人数の募集には至らなかった。
 - ・今回ネットでの検索から劇団ホームページを見つけて応募してくれた参加者もいた。学校に行けていない中学生など、インターネットを通じて繋がれる生徒も一定いるため、ホームページやSNSを用いたPRも積極的に行っていきたい。
 - ・(特定非営利法人)あそびと文化のNPO新宿子ども劇場の副理事長に外部有識者として関わってもらい、実際にワークショップに参加・見学していただいたうえで助言などをいただいた。
 - ・幅広く参加者を募るために、参加者から会費の徴収は行わず、無料で実施した。
 - ・自治体の補助金制度や民間の基金などは活用できていないので、働きかけを行うことが必要。2年間実施した実績を生かし、より発展的な取り組みにできるように努めたい。
- ・劇団の稽古場で実施したことで、参加者により本格的な体験を提供することができた。ただ、劇団のスケジュールによっては日程を確保出来ないことも有りうるため、地域の公立文化施設で実施するなど、検討が必要。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	8名
	学校名	新宿中学校・四谷中学校・国分寺市立第一中学校・ 投下応大学付属中学校
	募集方法	チラシを作成して近隣の中学校に配布。区内の掲示板にも掲示を依頼する。ホームページに特設ページを作成してPR。TwitterやFacebook、InstagramなどSNSを活用して活動の紹介を行う。
指導者	人数等	専任講師2名 劇団員の俳優・スタッフが協力
	募集方法	劇団の企画として、劇団員に協力をお願いする。
参加者の移動手段		バス・電車など
活動費用	指導者謝金等	メイン講師 謝金@35,650円(1回) サブ講師謝金@5,100円(1時間)
	その他	会場費 一日38,500円
活動財源	会費	
	その他	
スケジュール	基本活動	10月～1月の土日 全8回
	年間	
保険加入等		行事参加障害保険

【活動の様子（写真添付）】

